（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラシク川崎			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月　26日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	13	（回答者数）	9
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月26日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所の強みは、児童一人ひとりと職員が一体となって楽しめる環境づくりを行っている点にある。 今後は、この強みをさらに充実させ、安全を第一に考えながら支援の質向上や職員の専門性の強化につなげていくことを目標としている。	具体的には、活動のプログラムを児童の興味や成長段階に合わせて工夫したり、いろんなクッションなどを取り入れ、リラックスして過ごせたり、天井や床下にイルミネーションを飾りスヌーズレンや感覚遊びなど多様なアプローチを取り入れることで、全員が安心して楽しく参加できる環境を意識的に整えている。	今後の課題点として、専門支援の職員を交え、表現や意思伝達が難しい児童でも、自分の気持ちや意図を伝えやすくなるよう支援を行い、より参加しやすい環境づくりを図っていきたい。
2	支援の充実を図るため、ラシク鹿島田と連携し、合同での活動や交流の機会を設けている。	今後もラシク鹿島田と連携した合同活動の機会を設けていきたい。	このような工夫や取り組みを通して、児童が安心して楽しく過ごせる環境づくりを進めていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所の課題として、児童に対する職員の人数が十分でない日があることが挙げられる	児童数に対して、人員配置が十分に確保できていないこと	今後は、児童一人ひとりの安全や支援の質を確保するため、職員配置の見直しやシフト調整を行い、全日程で安定した支援が提供できる体制の整備に努めていく。
2	当事業所の課題として、学校のお迎え時間に関する情報連携が十分に取れていない場合があることが挙げられる。	担当職員のシフトや勤務時間の関係で、情報の引き継ぎが途切れやすいこと	今後は、職員間での連絡体制を見直し、情報の共有方法、例えば前日・当日（朝礼）でWチェックを統一することで、児童の安全確保やスムーズな支援につなげていく。
3	保護者同士の交流機会が提供できていないことが挙げられる。	職員の配置が十分でなく、日々の業務に追われて交流会が提供できないことが挙げられる。	職員間での業務分担の工夫や支援体制の見直しを行い、保護者が参加しやすい交流機会の充実につなげていく。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ラシク川崎

公表日 令和8年3月10日

利用児童数 13　　回収数 9

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8			1	眠れるような休むことができるスペースを確保していただき、ありがとうございます。	今後も、活動内容や児童の体調・状態に応じて、休息と活動の両面に配慮した空間づくりを継続し、安心して過ごせる環境の維持・向上に努めていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8			1		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	9					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1		4	交流を希望していません。	今後も、保護者や児童の意向を尊重し、無理に交流を行うことはせず、必要に応じて選択肢として情報提供を行うなど、柔軟な対応を心がけていく。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8			1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1		2	家族が参加できる夏祭りに参加しました。	今後も、家族やきょうだいが安心して参加できる行事や交流の場を検討し、家庭全体を支える取り組みの充実に努めていく。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	1		4		マニュアルの内容を家族にも周知し、必要に応じて家族も参加できる訓練の機会を設けることで、緊急時対応力を職員・家族双方で高め、より安全な支援環境を整えていく必要がある。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		4		マニュアルの内容を家族にも周知し、必要に応じて家族も参加できる訓練の機会を設けることで、緊急時対応力を職員・家族双方で高め、より安全な支援環境を整えていく必要がある。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	7			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8			1	確認不足による事故があったため、再発防止に努めてください。	当該事案については真摯に受け止め、職員間での確認体制や声かけの徹底、手順の見直しを行い、再発防止に向けた取り組みを進めている。今後も、事故防止に対する意識向上と安全管理の強化に努め、安心して利用できる環境づくりを継続していく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	5	3				
	29	事業所の支援に満足していますか。	6	2				

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	ラシク川崎

公表日 2026年3月10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	3	利用者に対して、職員の数が少ない日がある。看護師の人数が手薄になる日がある。安全には配慮しているが、人員が少なく十分なサービス提供ができるような配置を行えていない。管理者も現場にいることが多い。	児童一人ひとりの状態や活動内容に応じた職員配置の見直しを行い、全日程で十分な支援が提供できるよう体制の強化に努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		児童の状況によって、別室を使用している	児童の状況(例えば発作後対応など)に応じて別室を活用しているが、別室利用が一時的な環境調整であることや、その後の関わりの見通しについて、児童が安心して過ごせるような声かけや環境づくりを意識していく必要がある。また児童の病態に応じて集団での活動とのつながりを意識し、無理のない形で活動へ戻れるよう支援の工夫を重ねていきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	PDCAサイクルを回すための会議の時間が捻出できていない。	今後は、PDCAを回すための時間を計画的に設定し、職員全体が目標設定や振り返りに参加できるよう調整・工夫を進め、業務改善に役立てていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		会社で研修の機会を設けている。	社内研修では、支援方法の確認、法令・安全管理に関する学習を実施しており、外部研修では専門的知識や最新の支援技術の習得を促している。 今後も、研修の内容や開催頻度の充実、職員一人ひとりが必要な知識・技術を身につけられる体制の整備に努めていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		職員間では行われている。	今後も、作成されたプログラムを保護者や関係者にわかりやすく公表し、透明性のある支援体制の維持・向上に努めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	1		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	7	1	計画に沿った支援の提供が不十分な為、見直しが必要。	支援計画の内容や支援目標について職員間で確認・共有する機会を設け、日々の支援が計画と結びつくよう意識を高めていく必要がある。また、実際の支援状況と計画内容にずれが生じている場合には、定期的な見直しを行い、現場の実情に即した計画へと改善していきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		当事業所では主にHUGのケア記録や支援計画の確認を行なっている。	現状、児童の適応行動の把握は主にHUGのケア記録や支援計画の確認を通じて行われているが、標準化された評価ツールの活用や、日々の行動観察を体系的に整理・分析する仕組みが十分ではない。そのため、支援の効果や児童の発達状況を多角的に把握することが難しい場合があるため、支援の質をより客観的に評価・改善できる体制を整えていく必要がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	担当性のため、毎回チームで行なっているわけではない。	必要に応じてチームでの立案や情報共有の場を設け、児童一人ひとりに合わせた活動内容を共有・検討できる体制を整えるよう努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		静と動の活動分けや輪になり、一体感を感じられる活動を展開している。	課題点として、個別活動と集団活動のバランスや、児童発達支援計画との整合性が十分に確認されていない場合がある。そのため、児童一人ひとりの支援目標に沿った活動が継続的に提供されているか、十分に把握できるよう体制を整えていく必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	必ずではないが、打ち合わせを行なっている。基本的には児童に対してはマンツーマンの対応である。	より課題点としては、日々の支援内容を朝礼などで設けて確実に職員間で共有できるよう、打ち合わせの時間や方法を工夫・調整し、支援の質向上につなげていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3	4	必ず実施できているわけではない。	日々の支援内容を確実に振り返り、気づきや改善点を職員間で共有できるよう、打ち合わせの時間や方法を工夫・調整し、支援の質向上につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1		
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3	放課後等デイサービスの性質上、保育所や幼稚園など他施設との交流機会は現状少ない。また、保護者からも交流を希望されない場合があるため、児童が地域の中で多様な経験を積む機会が限定されている。	昨年はラシク内の他拠点との合同イベントや交流活動を工夫して開催しているため、今後も児童の社会性や適応力の向上につなげられる環境づくりの機会を増やしていく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	現状、送迎時に情報提供を通じて家族への簡易的な支援は行われているが、体系的な家族支援プログラムや研修の実施、定期的な情報提供の仕組みは十分ではない。そのため、家族が継続的に育児に関する知識や支援方法を学ぶ機会が限定されている。	現状、ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムを実施できる職員がいないため、研修や情報提供の機会を定期的に設けることで、家族の対応力向上につなげ、児童への支援と連動した体制を整えていく必要がある
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	2	定期的に行えていないが、生活介護事業所の見学の機会を設けたり、合同夏祭りを開催したりと工夫を凝らしながら行なっている。	定期的に保護者会や合同交流イベントを企画し開催する体制を整えることで、保護者同士やきょうだい同士の関わりを継続的に支援し、児童や家族双方の安心感や支援効果の向上につなげていく必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	定期的な通信の発行はできていない。	定期的な通信の発行はできていないも、ブログ・インスタグラムの活用を通じて、発行をしている。今後はより最新情報をわかりやすく届けられるよう取り組んでいく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			

	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		職員間での訓練は定期的に行なっている。	マニュアルの内容を家族にも周知し、必要に応じて家族も参加できる訓練の機会を設けることで、緊急時対応力を職員・家族双方で高め、より安全な支援環境を整えていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギーのある児童については、職員が必ず確認するケア表に記載し、児童が触れないよう配慮するとともに、情報が分かりやすく管理されるよう工夫している。	アレルギー情報を定期的に見直し、たまに出勤するパートの職員を含め、全員が確実に把握できるよう周知体制を強化するとともに、緊急時対応手順の確認や訓練を継続的に行い、児童の安全確保にさらに努める必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		環境設定を吟味し、徹底した安全に配慮している。	今後は、安全計画の内容を職員間で共有し、必要な研修や訓練を定期的に実施するとともに、現場での安全管理の状況を定期的に見直すことで、より安全な支援環境を継続的に維持する必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		社内研修や事業所内では定期的に資料や動画視聴を行い、職員同士での意見交換やラシク川崎での対策案など実施している。	研修で学んだ内容を実務に定着させるための振り返りやケース共有の機会を設け、職員間での理解の統一を図るとともに、継続的に対応力を高める体制を整えていく必要がある。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			